

# トップメッセージ



経営管理委員会会長

萬歳 章

代表理事理事長

河野良雄

東日本大震災からの復興に  
取り組まれている方々  
のご尽力に敬意を表します。

## 私たちの使命

### 農林水産業をしっかりと支えていきます

私たち農林中央金庫の存在意義は、「農林水産業の発展に寄与すること」。この農林中央金庫法の第一条に謳われた、農林水産業のメンバーシップバンクとしての特有の役割は、私たち役職員の一人ひとりが、どのような分野で仕事をしていても、忘れてはならない協同組織中央機関としての使命です。当金庫は、その使命を果たしていくため、農林水産業や関連する産業分野に対する良質な金融サービスの提供、および地域社会に根差したJAバンクやJFマリンバンクの金融事業のサポート、森林組合系統の取り組む森林再生事業等へのサポートに取り組んでおります。また、会員組織の資金運用の担い手としてグローバルな投融資業務を展開しています。

## 農林水産業と食と地域のくらしを支える リーディングバンクを目指して

近年、わが国の農林水産業は、高齢化や後継者不足などから、地域によっては生産基盤が弱体化するなど厳しい状況もありますが、その一方で、食の安全確保や自給率の向上、自然環境の保全、雇用の受け皿など、さまざまな機能への期待、農地の集約化や施設の共同利用の促進、新たな形態の経営体の出現、6次産業化への取り組みなど、今後の協同組織の事業のあり方に新しい展開を求める動きも盛んになってきています。このような情勢にあって、当金庫が、JA(農協)、JF(漁協)、およびJForest(森組)グループとともに果たすべき役割と社会的責任は、一段と大きくなっていると認識しております。

このため当金庫は、来るべき創立100周年を見据え、「農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク」の実現という目標を掲げ、成長産業と期待されている農林水産業の成長実現や被災地復興を含めた地域の持続的発展、人材育成をはじめとする系統信用事業の将来的な強化に資する取り組み、CSR活動を通じた農林水産業・環境・地域社会への貢献に取り組んでいます。

## 現場の声に答える。

食・環境・地域社会に深く関わる  
農林水産業をしっかりと支えていくこと。  
それが農林中央金庫の使命にほかなりません。

## 会員との大切な絆。

### 農林水産業のフィールドで 「現場の声に答えるCSR活動」を

90年前に当金庫を設立した全国の協同組合組織は、「相互扶助」と「共生」の理念のもと、今日にいたるまで一貫して日本の農林水産業の発展に貢献してきました。それは、農林漁業者を経済的に支援することはもちろん、ふるさとの風景を守り、地域のくらしを守ることであります。私たちは、こうした協同組織の事業や活動が、経済のみならず、環境や地域社会の持続的発展という、CSR活動の目的とすべき分野に本来的に深く関わりを持つことを誇りに思います。

当金庫のCSR活動は、こうした会員のさまざまな業務や活動事例を踏まえ、「現場の声」に応えながら、私たちの原点である農林水産業のフィールドで、業務全般を通じてその振興や地域社会・環境への貢献のために展開してまいります。

### 会員との大切な絆…

#### それが私たちのCSR活動の源泉

当金庫は、平成17年3月に「森林再生基金(FRONT80)」を設定し、民有林の再生を目的とした活動への助成を実施してきました。平成26年度にはその後継基金として「農中森力基金<sup>もりぢから</sup>」を設立しています。また、平成19年度からは、当金庫を含むJAバンクグループが一体となって実施する「JAバンクアグリサポート事業」を立ち上げ、日本の農業・農村に対して支援を開始しました。このような活動については、みなさまからご意見を賜りながら、さらに意義あるものへと発展させることにより、これまで以上に農林水産業と食と地域のくらしに貢献してまいります。

東日本大震災の復興への継続的な取り組みとしては、

平成23年度に創設した「復興支援プログラム」(期間4年程度、支援額300億円)に基づき、被災された農林水産業者への支援や、被災地域の生活再建に向けた支援、被災会員への事業・経営支援など、役職員一丸となった取組みを展開しました。また、農林水産業者への金融機能の強化や、農商工連携の取組みなど、各分野における着実な取組みを進めました。

これらの取組みは、私たちの機能が会員にとって価値あるものであるか、農林水産業・地域、そして社会の持続可能性に貢献しているか、という命題が問われていることにほかなりません。

このほか、平成25年度は、国連が定めた国際協同組合年(IYC)における活動を引き継ぐかたちでIYC記念協同組合全国協議会が組成され、当金庫も参画し、協同組合の価値や役割等の周知および協同組合間連携に取り組ましました。

### おわりに

当金庫は引き続き着実に自らの使命を果たしてまいりますとともに、CSR活動につきましても、農林水産業の現場にある会員と相互に連携し、協同組織のグループ全体で協調して取り組んでいくことが、多くのみなさまのご理解と評価につながっていくものと考えております。当金庫のCSR活動は、こうした会員との「絆」を源泉に、みなさまへの貢献のあり方を考え、社会的な存在意義を確認する、重要なバロメーターとなるものです。

7回目の発行となります本報告書では、こうした当金庫の震災からの復興への取組み、従来からの取組み等について、「現場の声」をご紹介しますことにより分かりやすくご説明するよう努めたつもりでございます。忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。